

## 令和4年度 南区自立支援協議会活動報告

### 1. 共通テーマにおける取り組み

ライフステージに沿って共通テーマ「複合的な課題を抱える家族への支援～世代や属性を超えたシームレスな連携・支援を考える」を意識し、各グループ活動、勉強会や事例検討会等の取り組みを進めてきた。

・地域交流グループ：地域への啓発、障害理解促進に向けた活動

子育て世代向けの相談窓口や制度が分かるように、みなみかぜ交流ひろばにて既存のパンフレット等を2月・3月に配架(展示)した。

・ネットワーク・協働グループ：関係機関ネットワーク・協働の体制づくり

「事例を通じて連携を考える」という内容で、それぞれの機関で協働できる事は何か意見交換した。

8月(乳幼児期事例)：3歳児検診で発達の遅れが指摘された児童とうつ症状のある母の世帯。

11月(就学期事例)：小学1年発達障害・知的障害の児童と、母の精神疾患により、父がキーパーソンの世帯。

1月：令和4年度に取り扱った事例の課題整理をライフステージの中での強み・課題(つまづき)、区協議会、市協議会への報告内容の整理を行う。

・指定相談事業所連絡会との合同勉強会・事例検討会開催

10月12日(水)	勉強会「乳幼児期の支援・連携について保健センターの役割を知る」 講師：南保健センター橋本氏(保健師)
内容：	前半の講義では、乳幼児期の保健師の関わりについて、保健センターの取り組みについて、ライフステージにおける保健センターの役割についてなど。 後半はグループに分かれて「児童の関わりについて」意見交換など。
12月	事例検討会「児童養護施設から地域生活に向けた支援」 指定相談事業所連絡会より事例
内容	グループに分かれて、個別(ミクロ)ネットワーク(メゾ)市や制度(マクロ)の視点で課題と工夫やアイデア出しを行った。児から者の移行期の支援について意見交換。

#### <取り組みから見えてきたこと>

・ライフステージの視点をもって課題を見た時に、早期の関わりや対応の必要の重要性があげられた。生活歴を確認すると児童期・青年期と徐々に生活課題が強くなってきており、8050問題や強度行動障害、ひきこもり等が早期対応により結果も変わっているのではと南区協議会の中で意見が出ている。

・市協議会で取り上げていただきたい事として、強度行動障害では「早期療育が積み重なる支援体制」障害児相談支援では「移行時(各場面)に途切れずに支援が移行できるような分野を越えた体制整備」検討いただきたい。

### 2. 南区独自の取り組み

○令和4年度当初に協議会の体制図を作成し、令和4年度は指定相談事業所連絡会との連動を意識した上で取り組みを進めていった。特に主任相談支援専門員に協力を得ながら相談支援の質向上に向け取り組んだ。(体制づくり)

・地域交流グループを中心に障害者理解促進に向けた取り組みに向け準備を進めてきた。ふれあいまつり開催が無かったため、南区役所内のみなみかぜ交流ひろばを活用した。(2月・3月)

#### <取り組みから見えてきたこと>

・個別の課題から協議会で必要な議論へつながるように、指定相談事業所連絡会や通所事業所連絡会などとの連動を引き続き可視化し、南区内で共通認識が持てるよう取り組んでいく。

・令和5年度、みなみんなフレンズの更新、これまでに作成した成果物の活用などについて検討を進めたい。